新聞があるのは日本だけじゃないよね。海外の人たちはどう接しているのかな。子どものころは、NIEを経験したのかなあ。日本に住む3カ国の人たちに聞いてみよう。お国の文字で「新聞」と書いてもらったよ。

果たす役割 万国共通

米国・英会話コーチ スティーブ・ソレイシィさん（49）

地元紙で自ら話題も発信

Newspaper
ニューズペイパー

米国フロリダ州出身。1990年に英語指導助手として岐阜県神岡町（現飛騨市）に初来日。2012年からNHKラジオ「英会話タイムトライアル」講師。「英会話なるほどフレーズ100」（アルク）など著作多数。世界で通用する英語の話し手を増やそうとコーチを務める。

ニュースへの関心が高い家庭で、いつも地元紙が身近にありました。中学生のとき、学校に行く前に新聞配達をしていたことがあります。

父はデベロッパーで、町に病院を誘致しようとしたときに父の名前や写真が新聞に載り、誇らしく思いました。両親の仕事に関係する新聞記事を切り貼りするのは、僕と妹の仕事でした。

地元紙はローカルニュースの情報源です。地元の政治や経済、企業の動きなど身近なニュースが載っています。誘致した企業の説明会の日程や地元企業の人事もある。知り合いや取引先がどこに移ったかが分かります。ネットは何でも手に入りますが、情報がありすぎて、地元の情報が見つからないことがありますよね。

米国の地元紙は、（自分のニュースを）発信する役割もあります。例えば「結婚しました」という記事が載る。転職するプレスリリースを自分で作り、新聞に送ることもあります。ソーシャルメディアの原点は新聞だと思っています。

学校では新聞を使った勉強がありました。楽しかったのは、新聞の中から文法やつづりのミスを見つけること。見つけると宿題を数回、やらなくてすんだんです。おかげで、正しいつづりや文法が身に付きました。日本でも、新聞を読んで言葉を覚えました。言語習得には、読み飛ばしてもいいから量をこなすのも大事です。

これからの新聞は、若い読者のハートをつかむことが、読まれるポイントだと思います。ブログで身近な話題や社会問題を発信しているように、若い人はみんながニュースメーカーですよね。そうした記事を発信する場を紙面に設けてはどうでしょうか。事実を淡々と書くだけでなく、遊びの部分もあればと思います。

（聞き手・長田真由美）

メモ 米国では各都市で発行される地元紙（Local paper）や地方紙（Regional paper）が主。USAトゥデーなどの全国紙は併読紙としての性格が強い。米国新聞協会（現ニュースメディア連合）によると日刊紙の発行紙数は2014年で約1300。

エジプト・アラビア語講師 エバ・ハッサンさん（40）

メディア通じて世界を知る

アッソハフ

エジプトで新聞が最初に出されたのは一七九〇年代でした。当時は、文字を読める人が少なくて、人を集めて新聞を読み上げたそうです。今は日刊紙や週刊紙が出されていて、その中でも主要紙は四つ。エジプト人は年齢にもよりますが何かしら新聞を取っています。各社がウェブ版も作っていて若者はネットを通して読む時代ですね。映画監督の父親は反政府系も含めて三、四紙と購読していたので新聞は身近でした。

新聞は、昔からエジプト社会において大きな役割を果たしてきたと思います。一般市民が海外に出るのは経済的にも簡単ではなく、新聞やメディアを通して外の世界を知るんです。

私自身は小学二、三年から高校生まで祖母に言われてノートに面白い見出しとか記事を貼って感想を書くことを続けていました。学校で作文の時間があって、最近読んで面白かったことを書く機会があったので役立ちました。日本の関連だと、皇太子のご成婚とか日本企業の商品開発とかの記事を読みました。ロボットのペット開発のニュースは面白くて覚えています。

日本語の学習では、大学三年生の時に東京の大学に留学し、新聞を取りました。本の出版とか分かりやすい広告から読み始めましたね。日本の新聞は構成がよく考えられているなと思いました。満員電車でも折り畳んで読めるようになっていて感動しました。当時は自国は「アラブの春」の前で検閲が掛かっていたので、自由さも感じましたね。

通訳や翻訳をしていますが、日本人の多くが何を考えているかは新聞を通して把握しています。要望としては、中東のいろんな要素を紹介してほしい。争いやテロがある中でも文化とか婚活とか面白いネタが多くあるんです。バランス良く取り上げてほしいですね。

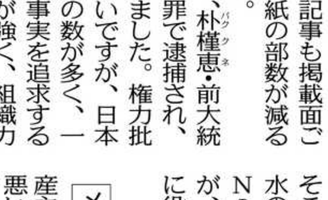
（聞き手・世古紘子）

メモ 1798年のナポレオンによるエジプト遠征で近代化が進み、フランス語とアラビア語の新聞が発行された。1981年からはムバラク大統領が30年間独裁政治を敷いたが、2010年以降にアラブ世界に波及した民主化運動「アラブの春」を機に辞任した。

1977年、エジプト・カイロ出身。カイロ大日本語学科を卒業し、2002年に来日。東京大大学院博士後期課程修了。NHK「テレビでアラビア語」に出演する傍ら、国際基督教大や外務省研修所で講師を務める。アラビア語・日本語の通訳、翻訳家。

韓国・中央日報東京総局長 呉栄煥（オヨンファン）さん（54）

情報化社会 物の見方学ぶ



シンムン

韓国にも新聞の宅配制度があります。幼い頃、朝起きるとドアの前に新聞が置かれていたのが懐かしい。それほど熱心に読んだ覚えはないですが、大学時代に政治に興味を持ったのが新聞社に入ったきっかけです。当時は「禁書」の時代で政治や経済の思想を日本語訳の本からも学びました。

韓国のNIEは一九九五年に始まりました。韓国新聞協会には日刊全国紙が三十五紙、地方紙は百三十紙ほどが加盟。二〇一二年時点で三十社ほどが取り組んでいるそうです。副教材を作ったり出前授業をしたりし、中央日報のようにNIEのページを持つ社も。

この十年でスマートフォンが普及し、若い世代を中心にデジタルでニュースが消費される時代になりました。日本の「ヤフーニュース」のように、韓国も「NAVER（ネイバー）」などの検索サイトに無料のニュースが充実し、中央日報の記事も掲載面ごとに読めます。紙の部数が減るのは必然ですね。

韓国では今年、朴槿恵（パククネ）・前大統領が収賄などの罪で逮捕され、その座を追われました。権力批判は日本より強いですが、日本の新聞社は記者の数が多く、一人一人も優秀。事実を追求する姿勢も日本の方が強く、組織力を感じます。その意味で、森友・加計学園問題など、ブレーキが利かなくなっている「安倍一強」の報道に注目しています。「都民ファースト」も気になります。

新聞記事は、ファクト（事実）に基づいてインベスティゲート（調査、分析）され、価値判断が加わったものです。名文、美文ではないけど、伝えたい内容が凝縮されています。若い人はそこを知ってほしい。情報が洪水のようにあふれる現代こそ、NIEで物の見方を学ぶことが、健全な市民、教養人の養成に役立つと信じます。

（聞き手・那須政治）

メモ 1961年以降続いた軍事政権は、共産主義思想など、政府に都合の悪い言論や出版を制限する「禁書」を実施。ソウル五輪を控えた87年6月、民主化デモの広がりを機に、当時の与党が大統領直接選挙制の導入などを約束する「民主化宣言」を発表。禁書も緩和された。

1963年、韓国尚州（サンジュ）市生まれ。ソウル大外交学科を卒業後、徴兵を経て88年中央日報入社。政治部（国防・外交）経験が長く、94～95、98～2001年に東京特派員。外交安保部長、国際部長、論説委員など歴任。15年6月から現職。大相撲やプロ野球のテレビ観戦が好き。